

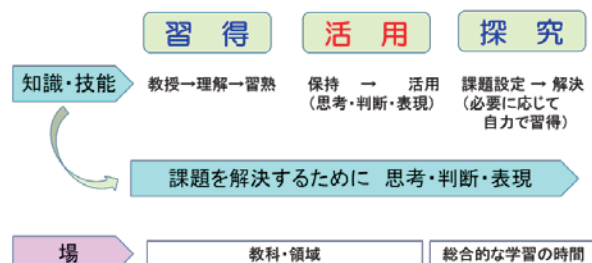
活用する力を高める工夫

～習得と活用、探究活動につながる授業づくり～

長岡京市立長岡第四中学校

研究主題について

『活用する力』を高めるために、各教科で知識・技能を活用する学習活動をどのように設定しているのか、『活用する力』を高める課題とはどのようなものなのか、『活用する力』を評価する問題はどうあるべきなのかを研究し、教科指導の充実に努めた。併せて、『活用』の前提となる「知識・技能を習得する」についても、学校全体として向上させるための取組を取り入れ、実践を進めてきた。



【学習指導要領における『活用』の位置付け】

全国学力・学習状況調査の結果における特徴

今年度、国語・数学とも平均正答率が京都府平均、全国平均をともに上回った。特に活用に関する問題（B問題）は研究指定を受け、取り組む前と比較すると大きな成果が得られた。

表1 京都府との平均正答率の差

	平均正答率 京都府との差
国語 A	+5.8
国語 B	+8.0
数学 A	+13.0
数学 B	+13.9

表2 標準化得点

	25年度(現高2) 標準化得点	27年度(現中3) 標準化得点
国語 A	102	103
国語 B	103	104
数学 A	105	106
数学 B	105	106

※表2は、研究指定を受ける前と研究指定を受け取り組んだ後の標準化得点（各年度の全国の平均正答率がそれぞれ100となるように標準化した得点）を比較した。

全国学力・学習状況調査の結果に寄与したと考えられる取組

授業における取組

1 定期テストにおける「活用する力を評価する問題」（以下「活用問題」）の設定

- (1) 全国学力・学習状況調査の「主として活用に関する問題（B問題）」の基本的構造を踏まえた問題を出題
※授業で既に類題を学習していて、その知識の再生になることがないようにしている

定期テストに活用問題を出題することで期待できる点

- ①より細かなサイクルで『活用する力』をチェックし、生徒に不足している力を把握することで次からの指導にフィードバックさせ、『活用する力』を高めるための授業改善を行っていくことができる。
- ②問題作成者（教科指導者）は、各単元で最終的にどのような力を付けさせたいのか、目標とするゴールを意識した教科指導を進めることができる。

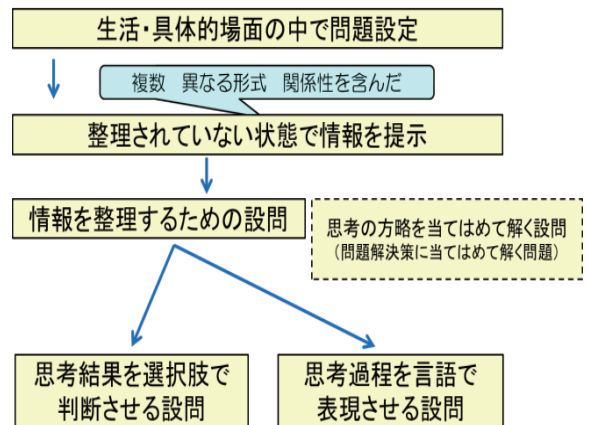
(2) 『活用する力』を問う問題（B問題の特徴）

- ・問題に、日常や生活場面に関わる設定がある。
- ・問題に取り組むきっかけ、問題解決の目的が示されている。なぜこの問題に取り組むのか、どんなことを解決したいのかが示されており、その目的に沿ってストーリーがつけられている。

- ・情報が整理されていない状態で提示されている。
 - ・問題の文脈を正しく理解できているか、複数の資料（図、表、グラフ）を正しく関連付けることができているかを問う設問がある。
 - ・「方法の説明」を問う設問がある。
- 単に答えを求めるのではなく、「何をどのように用いれば求められそうか」といった知識や技能の活用過程（思考過程）を言語（文章や図）で表現する力が問われる。

B問題の分析から見えてくることは、教科書の文脈で学習したことを日常の生活場面や社会における様々な事象などの文脈へと活用（適用、転移）することができる力が求められていることである。

また、生徒の『活用する力』を評価する問題とは、単に答えを求めさせることで測るのではなく、どのような既有知識や問題解決の方略を採用（活用）することで解答に至るのか、その思考過程を説明させることで活用の様相を捉えられるような問題である。『活用する力』を問う評価問題をつくる際には、生徒がどのような『活用』をしたのかが見えてくるような設問を設計することが大切である。



【全国学力・学習状況調査の「主として活用に関する問題（B問題）」の基本的構造】

2 B問題から見えてくる求められている力

＜情報の収集＞

雑多な情報の中から、必要な情報を取り出したり収集したりする力や、情報の内容を正しく読み取り、理解する力

＜整理・分析＞

既有知識に照らし合わせ、複数の資料を整理することや関連付けて分析する思考力と判断力

＜まとめ・表現＞

課題解決に必要な方法を探し、知識や技能をあてはめて自分の考えをまとめ言語化し表現する力

3 『活用する力』を高めるための授業の実施

各単元で活用に関わる内容を取り上げ、その中に言語活動も取り入れていく。

課題解決するに当たり必要な知識や技能を当てはめて（活用して）思考することができるようになるためには、答えさえ求められればよいといった結果重視の授業では不十分である。一問一答式のような知識の丸暗記では、別の文脈への適用ができないのではないかと考えられる。「なぜそうなるのか」といった原理を考える学習活動や、「なぜそう考えたのか」といった自分の思考過程（知識や技能の活用過程）を説明する学習活動を、普段の授業から継続的に取り入れていくことが必要である。

授業以外の取組

1 リポート学習の充実による基礎・基本の習得

- (1) 各教科で小テストの実施による形成的評価
- (2) 週末課題の実施による家庭学習の習慣化

2 放課後補充学習の実施による基礎・基本の徹底

- (1) 週1回（午後4～6時）学力に課題の見られる生徒を対象に補充学習を実施
- (2) 学校支援地域本部事業、学力サポーター（市の単費で配置）等による補充学習の実施

